東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2008年8月22日

知識と教養

親愛なる兄弟姉妹の皆様。

崇高なる私達の教えは、全ての命令や禁止事項によって、人が現世と来世双方で幸福となることを目標としています。この目標により、読み書きを知らない、無知であることを誇るような集団に使わされた預言者ムハンマドが、そのような集団からこの上なく高い徳を備え、文明的な人々を生み出したことは、人間の歴史の中で最も特別な出来事の一つです。この状態は同時に、最も残虐な人であったとしても、模範的な教育によってどれほど成熟した人となりえるかを私達に示しているのではないでしょうか。

クルアーンは、読むこと、学ぶこと、書くことに重きが置きました。事実最初に下された啓示は、読むことや筆、文字について言及しているのです。アッラーは読み、学び、学んだことを実践する人々を賞賛し、彼らを他の人々よりも優れているとしたのです。

親愛なるムスリムの皆様。

全てのムスリムは、現世と来世のために自分に必要な知識を得る責任を負っています。学問や知識を身につけることについて、クルアーンでは７５０に近い章句で言及されており、このことはこれらに対して与えられている重要性を証明するものです。アッラーは「主よ、わたしの知識を深めて下さい。」（ター・ハー章第１１４節）と願うことを勧めておられるのです。ただし忘れてはいけないことは、全ての恵みがそうであるように、全ての知識も現世と来世における生に役立つものであるべきなのです。事実預言者ムハンマドは、そのドゥアーで、役に立たない知識からアッラーに庇護を求めておられるのです。

アッラーは、戦いの際においてすら、知識を持つ人々が前線に出ることなく、集団を導く任務を続けることを求めておられます。預言者ムハンマドもあるハディースで、「アッラー、天使、地と天に存在する全てのもの、巣の中にいるありや海にいる魚にいたるまで、全ての生物は人々によいことを教える教師のためにドゥアーしている。」と述べられ、教えるという任務がどれほど重要なものであるかを示しておられるのです。

親愛なるムスリムの皆様。

教育では、最初の時期がとても重要だということは私達皆が知るところです。この時期に子供達を顧みない人々が辛い結末を迎えていることに、私達は証人となってこなかったでしょうか。子供は最初の教育やしつけをその家族から得るのです。従って両親は子供にとって最初の教師です。今日若い世代に広まっているたばこ、アルコール、覚せい剤といったような有害なもの、運に懸ける各種の遊び、賭博、性的逸脱などとの戦いは、私達皆の任務なのです。両親の責任は子供を学校に行かせることで終わるのではありません。逆に、子供に道徳的・宗教的知識、伝統や慣習をおしえ、学ぶべき環境・条件を整える必要があるのです。両親が子供に何かを教える段階になければ、それらを教えられる人を見つける責任があるのです。